

教会会報

川畔の尖塔

日本キリスト教団札幌教会

牧師
米倉 美佐男

「真理を悟らせる靈が来る」

ヨハネによる福音書十六章七～十五節
 「その方は、自分から語るのではなく、聞いたことを語り、また、これから起こることをあなたがたに告げるからである。」
 (十三節)

今年の創立記念は一二七年を覚えていま
 す。小樽教会は一三〇年、函館教会は一四〇年になります。教会は福音を世に伝える
 伝道、宣教の責任を持つています。それが
 主からキリスト者に託された務めです。

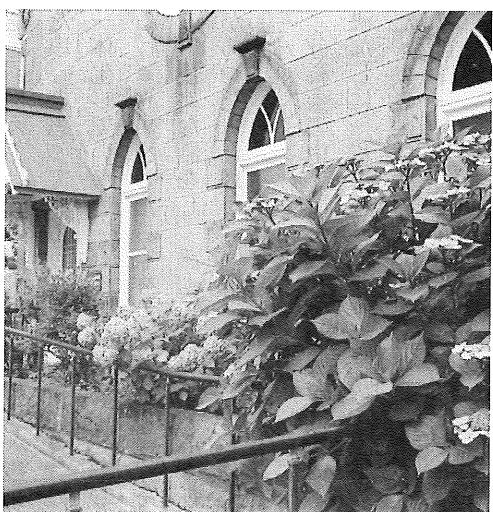
主イエスが父なる神のみもとを去ることによつて聖靈が遣わされました。それによつて、世の人の目が開かれ、同時に信じ

る者に、あらゆる真理に導かれる大いなる出来事が起つたのです。

ユダヤ人を始めとして、世の人々は何度も真理について教えられながら、主イエスをキリストとは受け入れようとしませんでした。信じようという気持ちを持たなかつたのです。自分たちの期待とは異なつていたからです。最初は期待したのです。この人だつたら今のどうにもならないこの状態を変えてくれるだろうと。自分たちを自由にしてくれるかも知れないと。ところが時間が経過しても期待した通りにならない。そうすると多くの者は苛立ち、期待外れだと言つてそんな者はもういらないとなるのです。ここに人間の繰り返しおかす愚行があります。

教会が主から託されたその務めを見るのに一番ふさわしいのはペントコステの出来事です。あの日、エルサレムで起つた事を忘れてはなりません。ペトロが説教した時、集まつていた多くの人々は「どうしたらよいのか」と尋ねました。ペトロは「悔い改めて、イエス・キリストの名によつてバプテスマを受けなさい」と言いました。

主による救いの出来事を知る真理と来るべき救いの完成の時を私たちは主イエス・キリストの十字架と復活を通して知らされるのです。聖靈の働きはイエス・キリストを信じる者を栄光の中に導きます。それによつて私たちはイエス以外に私たちを救うお方はおられないことを信じ告白することができます。イエスを主と信じ告白する者には大いなる喜びが与えられます。真の救いを知ることができるとからです。



「明日の教会」

全体懇談会報告

今年二月二十八日（日）の礼拝後に教会全体懇談会が行われました。『教会の今後をどのように展望するか』をテーマに、

男女合わせて四十六名の出席者があり、四つの分科会で活発な話し合いがなされました。話し合いの一部を以下に記しました。

第1分科会 「信仰の継承」

- 子どもたちが教会学校に通っている頃、行事に合わせて様子を見に来てくれた義父母その後受洗し教会に繋がった。
- 子どもの教会幼稚園通園で、夫が教会に導かれた。
- 家族が教会に来る機会を作る為には、クリスマス他の行事を手伝つてもらうなど受け皿が必要。
- 信仰生活の後姿を見せることが何十年後であつても繋がるきっかけになるのではないか。

第2分科会 「明星館など建物・施設のあり方」

- 札幌の中心であるこの地に与えられて

いるが、有効活用されているか疑問。● 社会のニーズを考え、子ども・高齢者・障がい者支援の為に何か出来ないだろうか。

- 子ども・母親支援をしたい。● 教会に来た人が慰められ、信頼関係のある交わりを本気で取り組まなければ。

認し、伝えていくのが大切。● もう一度来たい、と思つてもらうことが一番。● 今は一体化していない。寒々としたものを感じる。● 食事をしたら家族と同じと思う。そこで色々な話をし、誰かの為に祈れる場所があつたらと思う。

第3分科会 「伝道のあり方Ⓐ」

- タクシーで「札幌教会」と行き先を伝えれば、運転手さんが知つてているほど歴史的な史実と伝道が出来ている。
- 初めて教会に来た人は入りにくいと思うが、声かけを積極的にしていく。
- 一人一人が礼拝の後、周りの人配慮を。

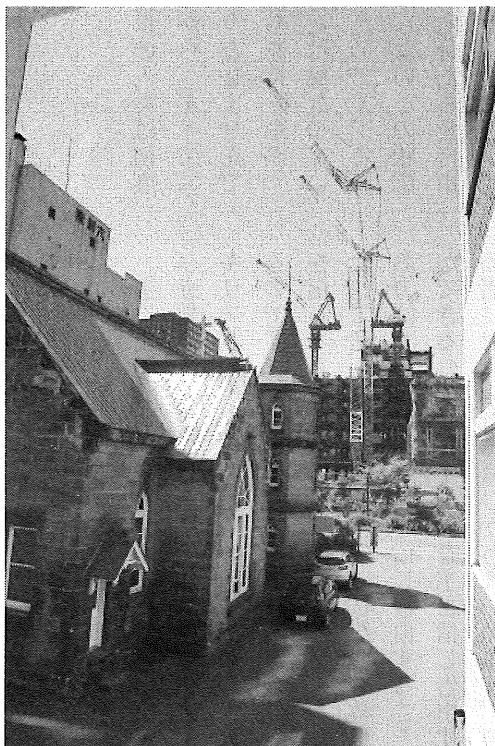
分科会の中では「教会の抱える問題の解決なしに一步を踏み出せない」の声もあつた。まさに教会の内側の建て直しである。教会員一人一人の信仰と、信仰による行いを改めて問い合わせられる集会であつた。

報告・宣教委員会

- パンフレットを自由に持つていけるように。
- 図書も借りやすい工夫を。
- 若い人の為の核作りを進める。
- 一階部分の活用。
- ホームページの充実。

第4分科会 「伝道のあり方Ⓑ」

- 救われた喜びを再確



教会127年の道

楽しかった青年会

下村 笑子

「昔は…」という言葉を口にすると、「歳をとつた証拠」と嫌われそうですが本当の事ですから致し方ありません。

懐かしい思い出をお知らせして今、私たちがどう生きていくのか? 示唆が得られたら幸いです。

記憶の曖昧さはお許しいただいて、一九五六年四月栗津首松牧師が小中高生三人のお子さんと共に四国から着任されました。

教会学校が盛んで生徒が沢山集まつていました。東京神学大学の神学生が夏休み二ヶ月間、夏期伝道師として来札し、教会に住み込み、牧師の働きを助けてくださいました。最初の年は大宮溥先生、四国出身で北海道の夏は素晴らしいと活発に夏期学校を率いられ洞爺湖畔の洞爺湖教会での一泊は思い出に残っています。暑い中、昭和新山に登り、キャンプファイヤーでは心に沁みる言葉に胸を熱くし、感謝の祈りに涙

を流しました。数名の中高生がイエス様との出合いを体験しました。

当時、青年会の会長は小池富雄さんで会員は男女合わせて二十数名いました。例会は当時の写真を見ると夏場は屋外に出かけ植物園や大通公園、中島公園などに遊びにいきました。

その頃、北海道大学の近くで中村正さんという教員の方が、毎週月曜日夜、「星の家」と名づけて家庭を開放して祈り会を始めた。

礼拝の説教が分からなかつたり、教会の仕組に疑問があつたり、とにかくザックランに語り合い、聖書を読んで祈りをするという集まりで、近くの青年達も参加していました。私は夜学に通学していましたので、初めは加わりませんでしたが卒業後に毎週顔を出すようになりました。

アパートの一部屋にテーブルを囲んで座り、狭いと感じるほど毎回十名前後の青年がいました。

教職が欠席の時もありましたが、中村兄が七十歳になるまで約二年間続きました。

その間、洗礼に導かれた方も数名おり、小池兄もその一人です。

その後、開設された麻生伝道所へ中村兄は転会されました。教会外の集会が麻生伝道所新設につながつたと思います。



中村正兄の転居で星の家が解散となつたとき
お別れ会に集まつた人たち

戦後七十年を越えて

若い頃の札幌教会の記憶

(1948～1954 昭23～29)

榮 潤子

私ども新保の一家が札幌教会に連なつたのは一九四八年樺太から引き揚げ、一年東京での生活を終えてからでした。当時は相馬先生と熊本先生が牧師館と構内に住んで牧会しておいででした。

やがて平野先生が満洲からの引き揚げ後、赴任して来られました。

三人の牧者に導かれた教会は活気にあふれ、婦人会、大人会はもちろん、青年会、光耀会（男子高校生）、すみれ会（女子高校生）等は盛んに行われました。日曜学校はこの若い人々が教師になつて学年別にクラスを行つていきました。

当時は教会附属の札幌明星幼稚園がありました。山田しゅんさんが責任を持つていました。沢山の子どもが平日に入り出していました。

市内では良く伝道集会が行われました。市民会館や大通公園で行われ、賀川伝道、宣教師による伝道、ヘレンケラーの来札もあつ

て私は良くそれらの集会に出席しました。

当時は光耀会、すみれ会が合同して学生部となり、夏期修養会が開かれるようになりました。相馬先生、熊本先生が中心となり、錢函の古梅荘で二泊三日で行われました。

この時から明るいキャンプソングが歌われる習慣が出来たと思います。屋外での早天祈祷会、キャンプファイアの証詞、どれも集つた人々と共に忘れる事ができません。

またその頃、教会に J. 3 (日本に三年伝道) という制度で宣教師が遣わされ、

ベーシンガーハー氏、ドーナン氏が滞在しました。英語教室も行われ、ついに会場が必要

した。断食を実行している方達もいました。終わつてから礼拝堂の石炭ストーブを

受難週には毎日早天祈祷会が行われ、信徒が交代で奨励を行ない、祈りが捧げられました。暖まつてから帰りました。

相馬先生が野方町教会へ移られ、熊本先生が木造教会へ移られてから依田駿作先生が赴任されました。また新しい雰囲気が教会の中に生まれました。その後私も進学のため札幌を離れました。多くの恵みに感謝です。



この建築事業の為、バザーが行われました。婦人会は割ぼう着姿もりりしく、幼稚園舎の屋内外を使って行されました。

青年達がどんなに力強く働いたことでなれないお給仕をしました。教会が一つになつてがんばりました。

クリスマスも一大行事でした。日曜学校のクラス別で出し物があり、全年齢から集つた人による劇は熱の入つたものでした。

その頃は礼拝堂の椅子をわきへ寄せて、

ゴザを敷き、みんな座つて壇上を見上げました。物のない時代でしたが戦後の解放感を味わう時でした。

この建築事業の為、バザーが行われました。婦人会は割ぼう着姿もりりしく、幼稚園舎の屋内外を使って行されました。

青年達がどんなに力強く働いたことでなれないお給仕をしました。教会が一つになつてがんばりました。

クリスマスも一大行事でした。日曜学校のクラス別で出し物があり、全年齢から集つた人による劇は熱の入つたものでした。

その頃は礼拝堂の椅子をわきへ寄せて、

ゴザを敷き、みんな座つて壇上を見上げました。物のない時代でしたが戦後の解放感を味わう時でした。

この建築事業の為、バザーが行われました。婦人会は割ぼう着姿もりりしく、幼稚園舎の屋内外を使って行されました。

青年達がどんなに力強く働いたことでなれないお給仕をしました。教会が一つになつてがんばりました。

C S ピクニック報告

米倉 順子

教会学校では、毎年六月の第二日曜日に、花の日・子どもの日を覚えて、ピクニックに出かけています。今年は、羊ヶ丘展望台へ行くことに決まり、子どもたちだけでなく、大人の方々にも来ていただきたいと呼びかけました。

小学生一名、園児二名、幼稚二名、保護者三名、C S 教師五名、婦人会員十名の方たちが、教会で昼食を済ませた後、六台の車に分乗し、羊ヶ丘へ向かいました。風がとても強く、予定していたボール遊びやバーミントンが出来ないので、子どもたちは時間を持て余すのではないかと心配でしたが、スイカの献品と、スイカ割の準備をしてくださっていたので、子どもたちは大喜びで、何度も何度もスイカ割に興じていました。



見張番をしてくれる人あり、ほとんどの人達が、園内にある足湯へとくり出し、一時は札幌教会の貸し切り状態で、大人も子どもも足湯につかり、ほっこりとした時間をすごしました。楽しい時間は、あつという間に過ぎてしまいました。

参加して下さった皆様、祈つていて下さった皆様、献金をして下さった皆様に感謝。とても元気な子どもたちです。時にはうるさく迷惑をおかけしていますが、この子どもたちが一人も欠けることなく、神様に出会い、教会に連なる者となれますように、祈りを合わせていただければ幸いです。

今、子どもたちが毎週C S に集められていて、教会の子どもとして育ててもらつているなあ、と感謝です。『わたしの目にあなたは値高く、貴く（イザヤ書43：4）』日本の若者は自己肯定感が低い、と言われ、母親としては家庭で自己肯定感を育むことができているだろうかと不安になってしまふのですが、教会学校に来ていればきっと大丈夫（！）。「お帰りなさい」と迎えてくれるC S 。これからもずっとそこであつてほしいC S です。地域の子どもたちも、集まれ。

教会学校へ行こう

岡田（辻）のぞみ

私が子どもだった頃。毎週父親に連れられて、兄弟と一緒にC S に通っていました。かなりやんちゃな生徒だったので、今、自分の子どもたちが場にそぐわない態度をとつていても偉そうなことは言えないなあとこつそり思つたりしています。お世話になつた先生の顔を思い浮かべてみると、達筆なおばあちゃん先生、憧れのお姉さん先生、宣教師の先生、などなど。今にして思えば、いろいろな大人に大事にしてもらつて、祈つてもらつていました。

今、子どもたちが毎週C S に集められていて、教会の子どもとして育ててもらつているなあ、と感謝です。『わたしの目にあなたは値高く、貴く（イザヤ書43：4）』日本の若者は自己肯定感が低い、と言わ

その間、寒さに震えながら子どもたちの様子を見守つていてくださった婦人会の皆様、ありがとうございました。みんなでスイカを食べた後、三十分の自由時間となり、コーヒーを飲みに行く人あり、荷物の

菊地とみ子姉は岩内町で誕生、賀川豊彦伝道集会で心捉えられ、岩内教会卯尾牧師より受洗、青年会員と共に炭鉱の町、茅沼伝道に熱心だった。交通不便の当時、吹雪の時などバスは不通、吹きつけ海岸沿いの道を讃美歌を歌いながら後向きに歩いて集会に合流したとか。やがてこの集会から伝道所が設立された。

とみ子姉は女学校卒業後、電話局に勤務、菊地道之兄と結婚、二女を与える一家は岩内大火後札幌へ転居、札幌NTTで定年まで勤められた。自立心が強いとみ子姉は、勤務の重責を担う傍ら洋裁や編物が堪能、オルガンは独学で奏楽奉仕もされた。晩年、体調を崩されてから家族、特に道之兄の健康を案じ道之兄に先立たれた後は、同居の娘さん家族に囲まれ、元気でデイサービス等に通つておられた。突如主のみ許に召され、眞の平安を得ておられる事を信じ、み名を崇めます。

菊地とみ子姉は岩内町で誕生、賀川豊彦伝道集会で心捉えられ、岩内教会卯尾牧師より受洗、青年会員と共に炭鉱の町、茅沼伝道に熱心だった。交通不便の当時、吹雪の時などバスは不通、吹きつけ海岸沿いの道を讃美歌を歌いながら後向きに歩いて集会に合流したとか。やがてこの集会から伝道所が設立された。

洗礼を受けられてからは礼拝を休まず、クリスマスツリーの設置や大人会が昼食の奉仕をされた時の頼もしい助け手のお一人でした。ここ数年は礼拝に出席されない時は病院に入院中のことが多く、最後の時は入院先の札幌NTT病院から本人が連絡を下さいました。一度は回復の兆しを見せ、退院後の生活先を病院側と相談し、白石区のグループホームと交渉したのですが成立せず、そのうちご体調が急変し主の御許に帰られました。身許を引き受けくださるご家族、関係者がおらず、役員会で相談の結果、教会で葬式を出しました。教会墓地に埋葬されている奥様と共に葬られるのが彼の希望でした。

(米倉牧師記)

追悼
菊地とみ子 姉



2016年2月17日

追悼
蓑島輝夫 兄



2016年6月19日

追悼
黒澤信次郎 兄



2016年7月8日

黒澤 淳子

世代が移り変わり、北海道の開発に貢献した黒澤酉蔵（昭和五十七年九十七歳で召天）のことを知る人も少なくなりました。

先日その次男、信次郎の葬儀が行われ、札幌教会の皆様には大変お世話になり、有難うございました。私は酉蔵の弟、和雄の娘で血縁的にも一番近い従兄妹でした。

ちょうど、酉蔵生誕一三〇年を記念して孫の会の計画があり、神様のお計らいで多くの甥、姪が葬儀にも出席するという不思議な結果となりました。信次郎さん本当によかつたですね。彼は十八歳で海軍士官学校に入り将校で終戦を迎え、日本開拓公社に入り、結婚後、酪農の自営に精進し、サツラク農協の組合長としても二十六年間勤めて、忙しい毎日でした。ご苦労様でした。信次郎さんとの想い出は沢山あります。が、神様のお導きに感謝し、安らかなねむりを心から祈ります。

熊本地震支援セールについて

伊藤美智子

七月十日、米倉牧師から「求めなさい」

の説教の後、教会員の祈りとご協力のもと「熊本震災支援セール」をさせていただきました。

お陰さまで「東日本」の時と同様、沢山の食品、スカーフ、バッグ、アクセサリー、小物類などが出でられ、ささやかではありますがあれやかに、教会員との絆もより深く感じられ、支援させて頂ける感謝の気持ちで一杯になりました。

四月十四日、最大震度「七」そして

「六」「五」という地震が何度も続き、その恐怖は想像を絶します。亡くなられた方、家を崩壊された方々の気持ちを思うと計り知れません。

そのような経験をされた方々と「苦しみと共に」という事は重すぎ、とうてい出来ませんが、心を込め、微力ながらも、これからも続けさせて頂けたら、有難く幸いな事と思います。



邦楽器による 讃美のつどいについて

村本 憲子

と合奏出来るよう、美しいメロディーに編曲して下さつてきれいなハーモニーが出来上がりました。

栗山教会で今枝姉と一緒に歌っていた

「いつくし
み深き」の

私が初めて琴に触れたのは七歳の頃、お寺の住職の奥さんからお琴を習い始めました。六十年以上も昔の話です。

栗山教会へ通っていた時、私も琴を弾くと言つておられた今枝洋子姉が十数年

後、一つのカセットテープを渡してくれました。彼女が教会音楽祭で聞いた琴で讃美歌を演奏しているものでした。

それが私とホサナ邦楽アンサンブルとの初めての出会いです。

三年前に「琴による讃美歌セミナー」の案内を代表の田口先生よりいただき、今枝姉のことを思い出し参加しました。

七月二日、今枝姉がホサナ合奏団を北海道に呼びたいと願つておられたことが神様のお導きにより実現しました。

会場を貸して下さった札幌教会の米倉牧師と役員会に感謝です。



田口先生が讃美歌を尺八やフルートなど

曲

上げます。

教会
Do!

第二主日は、おたのしみ食堂

佐々木洋子

たくさんの方々にご利用頂き支えられて早くも八年目になりました。礼拝後、食堂がない時に、皆さん連れ立つて食事に行かれることを目にし、特に冬は足元も悪く大変そうで、なんとか食事を提供出来ないものかと思案していました、同じ事を考えていた方が現れ意気投合し早速役員会の承認を頂き実行することになりました。

二〇〇九年一月のことです。当初は一食三〇〇円で冬期限定のつもりでしたが、食後も落ち着いてゆつくりお話を出来、良き交わりの場になつているようなので、そのまま継続し今に至つております。「おたのしみ食堂」の名の通り楽しいことも企画し、一月には恒例のご利用感謝の「お食事券」や「お土産券」が当たる「お楽しみ巾着定食」また時には甘いデザートを添え喜んで頂いています。メニューは、その時の食材の値段によって決めることもありますが、定番のカレーライス、ハヤシライス、

クリームシチュー、豚汁、ちらし寿司、炊込みご飯、そして夏には冷やし中華。また手が足りない時には、簡単な三食丼、余裕のある時には煮込みハンバーグや中華定食と、バラエティーに富んでいます。また心のこもった食材の献品も多く感謝です。土曜日の午前中に食材の買出しをし、午後から調理を始め、仕込みが済んでから遅めの昼食。このひとときは、とても楽しく心が和みます。



編集 後記

一二七年の昔、信仰の先輩たちが聖靈を受け（使徒1の1～2）主イエスの使徒として札幌教会の基を築きました。教会は世の波風に耐え、幾多の難関を切り抜けて今の私たちに引き継がれているのです。主の恵みに応え、与えられた使命に私たちはどう向き合つて行くのかが常に問われていることを覚えましょう。本年度の編集は梅田和代、小谷和雄、小谷由子、鈴木重安、鈴木泰子、鈴木紀子、森真琴、中川洋子、深田三枝子がご奉仕します。（重）

それぞれに与えられた賜物を生かし楽しくご奉仕出来ることは喜びです。初めは八〇食以上出ていましたが、最近では六〇食位になり寂しいことです。また、「御馳走さま、美味しいかつた」と食器を下げに来て下さる方々の笑顔に励まされ疲れも吹き飛んでしまいます。また盛付けや後片付け等も積極的にお手伝い下さり嬉しいことです。これからも、皆さんに喜んでご利用して頂けるようスタッフ一同、心を込めて美味しいお料理を作る努力をいたしますので、どうぞ、ご覗願に！ 当初は筒井姉、荻原姉もお手伝い下さいましたが、現在のメンバーは、鶯頭姉、大濱姉、大石姉、順子姉、佐々木です。